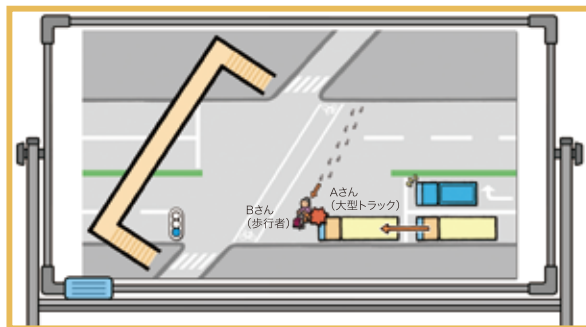


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に  
至るまでの  
状況

Aさん(大型トラック、50代、男性)は片側2車線道路を走行中、信号が赤になったので停車。隣の車線にもトラックが信号待ちで停車中でした。大きな交差点で、停止線の先には自転車通行帯のみが設置されていて、歩行者は歩道橋を渡るようになっていました。Aさんは信号が青になったものの、隣のトラックが動かないので不思議に思ったのですが、深く考えずに発進。その直後、道路を右から徒歩で横断してきたBさん(歩行者、80代、女性)に気付かずにはねてしまいました。

事故現場  
略図



## 事故の原因

Bさんは足腰が弱く、手押し車を押しながら歩いていました。体力的に歩道橋を渡れる状態ではなかったため、仕方なく道路を横断していたものと思われます。Aさんが「隣の車がしばらく動かない」など、何らかのサインを見落とさず、横断中のBさんに気が付いていれ

ば、事故は防げたと思われます。この事故の人的要因はAさんの「発見の遅れ・安全不確認」になります。交差点での歩行者の見落としは重大事故につながりかねません。くれぐれも注意しましょう。

## 安全運転に向けて指導のポイント

今後、高齢化が進む中、こういった状況は増える傾向にあると思われます。他人事ではなく、いつ加害者になってもおかしくありません。そうならないように

防衛運転を心がけましょう。特に交差点などでは、赤になっても渡りきれない歩行者がいると思い、見落とさないように注意しましょう。

### 今月の安全メモ!

- ・交差点で発進するときは横断歩行者がないことを十分確認しよう!
- ・つねに防衛運転を心がけよう。“周囲の車の動き”にもヒントあり!